

東京電機大学大学院 先端科学技術研究科 平成26年度 講義要目(シラバス)

科目名	メディア情報学先端演習
英文名	Advanced Study of Media Informatics
学部学科	先端科学技術研究科 情報学専攻
配当学年	1・2・3年次
開講時期	通年
単位数	4.0
必選区分	選択
担当者名	小林 春美

目的概要	人間はどのように非言語情報と言語情報を利用してコミュニケーションを行うかについて、特に言語獲得における語の意味の推測に焦点を当てて演習を行う。研究においては世界レベルでの研究動向に関する知識が不可欠である。そのため、テーマに関する重要文献を渉猟するとともに、関連する文献も広く読み込む能力を身につける。得られた知識に基づき、未解決でかつ人間の心の本質を言語・非言語情報の検討から究明しようとする問いを自力で見つけ出す力を養成する。さらに仮説検証可能な問いに構成し直し、最適な実験デザインを策定すること、それを実際に実施し、結果を評価する能力を身につける。さらに論文を執筆するとともに、学会で発表するプレゼン能力も身につけ、研究を一通り自力で実施できるようにする。
教科書名	研究の進捗に合わせて学生自らがテーマに関する文献を見出し、教員も必要な文献を提示する。
参考書名	研究の進捗に合わせて学生自らが関連する文献を見出し、教員も必要な文献を提示する。
評価方法	1年間のうちに3回以上国際会議または国内会議、研究会で発表を行う。さらに1本以上のジャーナル論文を作成し投稿する。評価は文献の検討から論文執筆にいたるこれらの会議論文の作成過程と、できあがった論文自体を評価する。論文作成途上および査読結果に関する教員との討論内容も評価に含める。作成過程評価:論文等成果物評価=5:5とする。
テーマ・内容	専門分野における最新の研究動向について正確な知識を得るとともに、科学的研究手法を十分に確立し、それを実際に実現し論文作成を行う能力を身につける。以下の各項目により構成する。 1) 言語・非言語情報に関する文献を広く読み、得られている知識について理解をうるとともに、学界・学問の流れに関する動向を検討する。 2) 未解決の問題は何かについて十分な検討を行い、特定する。仮説検証可能な問いを設定する。 3) 仮説を決定し、先行研究も参考にして科学的に検証可能な実験デザインを策定する。 4) 実験デザインをあらゆる観点から検討し、修正し、予備実験計画を策定する。 5) 予備実験を実施し、データ収集を行う。実験参加者からの事後アンケートやインタビューも行う。 6) 予備実験のデータ分析を行い、問題点の抽出を行う。 7) 予備実験における問題点を修正し、詳細な本実験計画を策定する。 8) 本実験のデータ分析を行い、結果を評価する。 9) 本実験の結果と評価に基づき、さらなる本実験(実験2, 3など)を策定する。 10) 6から10までを、研究テーマにとって必要な回数繰り返す。 11) 問題、方法、結果、考察の各項目を執筆する。原則として実験ごとに執筆する。 12) 全体考察、結論、文献リストなども執筆し、論文を完成させる。 13) 国際会議、国内会議、雑誌論文のいずれかの形式に整え、投稿する。
E-Mail address	h-koba@mail.dendai.ac.jp
履修上の注意事項・学習上の助言	英語力は論文の検討と執筆およびプレゼンにおいて極めて重要であるため、大学の科学英語に加えて学生自身も日頃からあらゆる機会を利用して修得に努める。